日本共産党・前都議会議員　東京民報折りこみ版

そねはじめレポート

2012年 5月 30日発行　第 43 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2－11－6
Tel:3907－1135
Fax:3906－3225

十条と桐ヶ丘で公共開発に「ちょっと待て」の声

住民の思いが届くまでねばりづよく！

5月26日の午後、十条駅前に東京や埼玉の再開発と住民の利益を掲げてたたかっている「区画整理・再開発対策会議」の方々が30人近く集まり、十条駅西口再開発予定地域を見学した後、上十条ふれあい館で交流会を開きました。

◆「再開発」時代は終った◆

交流会は、六本木ヒルズの「六町開発」の窪田さん、葛飾の立山や金町の方々、大宮や板橋など、再開発で強引に土地建物を再開発ビル内に権利変換させられた人、まだたたかっている人、開発を頓挫させた人などの貴重な意見交換の場となりました。

十条再開発地域を見学するそねはじめ前都議と対策会議の人々

金町の住民は「国交省役人がOBになり再開発は時代遅れと発言している。冷静に判断すれば地権者三分の二が合意するほどメリットはない」と紹介し、開発強行後のまちの実態や、開発にマッタをかけるチャンスなど具体的な話が出されました。

◆区も赤字を出す再開発◆

そねはじめ前都議は、東京都が北赤羽駅前再開発で250億円の赤字で失敗し十条駅前開発を断念したことを紹介。「行政も税金の浪費になる再開発。住民こそ損しない様に」と訴えました。

桐ヶ丘都営団地建替えで高齢化した地域のまちづくりを

5月25日には、都の住宅建設事務所を呼んで、桐ヶ丘団地後期建て替え事業に対する住民要望の会が行われ、四〇人以上参加がありました。

◆高層化でだいじょうぶ？◆

さがらとしこ区議が、桐ヶ丘団地の後期建替えについて、特に桐ヶ丘北小跡地のつめこみ住宅と、西が丘からの自動車道路などについて都の岩田開発課長に見直しを要望しました。

参加者は「古い住宅で建替えを待つ間EV無しは困る。」

「突風の日にEVが止まり、酸素ボンベが不足した」など高齢化の実態を訴え、都側も真剣に聞いていました。

桐ヶ丘つめこみ住宅計画(さがら画)

6月7～8日・東北ボラご支援を!

★★支援募金・おこめ・ボラ参加にご協力願います★★

北区の共産党は、今年も石巻地方を中心にボランティア活動を継続して行います。野菜などの食料や支援品は、できるだけ新品を現地のお店で買うようにしています。北区の皆さんには、支援募金やお米などのご協力と現地見学も兼ねボランティア参加を、ぜひ今後もお願いします。

昨年8月のボランティア

消費税増税ゆるすなと各団体で運動が！

そねはじめ前都議が出席した、北区内の福祉や医療などの区民団体総会で、かつてない規模で、消費税増税法案反対の決議や運動が決められました。

◆福祉・医療・零細業者の団体で

新日本婦人の会、生活と健康を守る会の桐ヶ丘や浮間の各支部、東京土建北支部、桐ヶ丘健康友の会、北部福祉倶楽部など、いずれも最悪の庶民増税と正面からたたかう決意を表明しています。

６月には納税額倍増で直接被害を受ける中小業者団体の民主商工会も大会を開きます。

◆会期末で廃案に追い込もう

民主党は、自分の政治的延命のために「増税反対」を主張する小沢氏らによる分裂を避けるため会期大幅延長をねらっています。自民党などは、反対運動にブレーキをかけようと生活保護への攻撃を強めています。

◆運動の団結と総結集を

日本共産党は、会期末までに消費税の問題を徹底究明し、廃案に追い込もうと訴えています。今こそ一点での協力・共同が北区でも必要です。

写真は雨の中、山崎区議と訴えるそね前都議

五輪予定地の放射能リスクは「風評」ではない！

５月のＩＯＣで、２０２０年オリンピック候補地に東京・マドリッド（スペイン）・イスタンブール（トルコ）の３都市が残りました。東京以外は初立候補で市民の支持率も高く、東京は４５％と最低です。石原知事らは「放射能汚染の風評被害」などと言っていますが、共産党都議団の調査でトライアスロンやカヌー競技予定地付近で国基準の８千を超える１万ベクレル以上の土壌中残留放射能が出ており風評ではありません。国際的責任からも辞退すべきです。

写真は測定と同量の土を見せて質問する大山とも子都議

そねはじめ交友録 ＜その三十七＞

最初に届いたのは三浦さんと２万個の饅頭だった

昨年六月に、最初のボランティアで募金を手渡した時、三浦一敏市議団長の印象は、すらっとのっぽだが、はきはきした女性市議に比べ、地味な印象でした。絶えず携帯に相談の電話が入り「んだからね」などとトツトツと答えていました。

ところが被災者が命からがら駆け上って助かったという日和山（ひよりやま）への道々、ガイドしてくれた地元の方から聞いたのは、山に逃げたものの、丸一昼夜救援を待ち続けていた数千人の被災者に最初に届けられたのは、三浦さんが菓子工場の社長と一緒に運んだ２万個の饅頭だったと聞いてその気転に感心しました。

昨年８月バザー会場で挨拶するそね前都議と三浦現県議(左)

八月のボランティアでは、津波被害が少なかった地域の人もくらしは破壊されたままだと知って、港から遠い住宅街でも無料バザーをやり感謝されました。三浦さんはその時、「災害の時は市より県に大きな権限を発揮させなければ」と、戦後一度もとれていない地元の県議に挑戦を決意していました。

きっと演説は“立て板に水”ではなかったと思いますが、その心は誰もが知っている三浦さんは五人区の第三位で当選。いまはもう次の議席確保のために、共産党で一緒に頑張ってくれる仲間を増やしているそうです。仮設の方たちが「これは三浦さんへの恩返しでなく一緒に自分たちでまちを復興させるために党に入った」と話しているそうです。